

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-179	12-313	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
Trajectory analyses in alcohol treatment research. アルコール治療研究の軌跡分析		
執筆者		
Chen J, Johnson BA, Wang XQ, O'Quigley J, Isaac M, Zhang D, Liu L. Source		
掲載誌		
Alcohol ClinExp Res. 2012 Aug;36(8):1442-8. doi:		
キーワード		
軌跡解析、薬物治療、アルコール依存症、		
要 旨		
目的： アルコール治療研究でデータ分析のためにさまざまな統計学的手法が使われた。軌跡分析は治療効果の違いをよりよく捕えることができ、将来の臨床試験の最適長さと猶予期間に洞察を提供する可能性がある。そして、データの非線形的経時的傾向を捕えることができない一般的に用いられるパラメトリック分析（例えば線形の）の限界を改善する。		
方法： より正確には飲酒データの経時的パターンを特徴づけるために、より柔軟なスムージング混合効果モデルを使用した探索的アプローチを我々は提案する。多施設トピラマート研究と薬理的治療（アカンプロサートとナルトレキソン）と行動介入を結合した研究の 2 つのソースからデータをえて治療アームの軌跡を推定した。		
結果： 本法により、トピラマートとプラセボ群のアームの飲酒の結果は研究の全ての期間において低下し、トピラマート群ではより大きな低下率であることが明らかになった。各時点の信頼区間によって、トピラマート群の大量飲酒率は、第 2 週という早い時期にプラセボ群のものと異なるかもしれない。また、両アームの大量飲酒率は、研究終了後に安定するようであった。全体として、ナルトレキソンは時間とともに飲酒を減らすことでのプラセボより良好だったが、短期薬物治療と集中的な行動介入の組合せを受けている被験者ではプラセボと異ならなかった。		
結論： 推定された軌跡図面は、明らかに結果に飲酒に対する異なる薬物で治療の非線形経時的傾向を表して、結果のより詳細な解釈を提供した。この軌跡分析アプローチは、アルコール症で薬物療法試験で有効性を評価する有効な探索方法として提案される。		